

整備事例集 vol.15

令和2年度整備事例集

私たちのまちを
私たちでつくる
きっとまちが好きになる



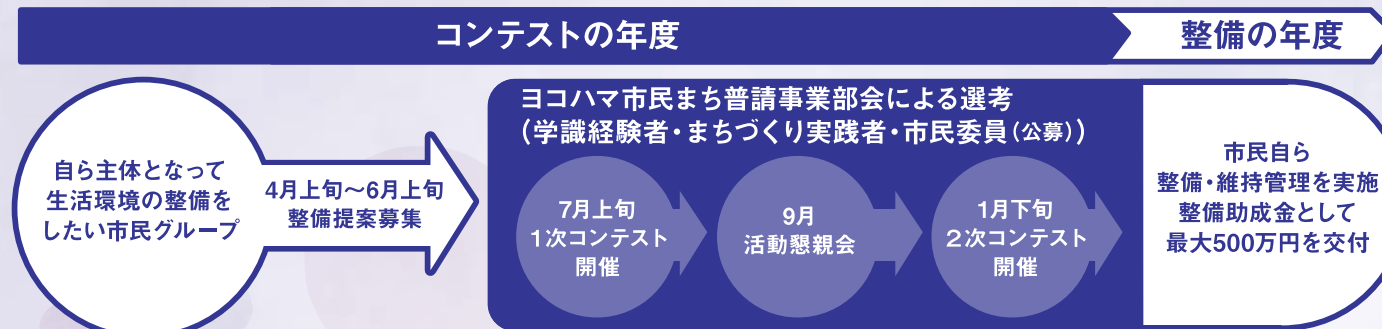
掲載事例

- ① コミュニティカフェの新設(港南区)
- ② カベを取り払ってみんなが自由になる「ひろば」づくり(港北区)
- ③ みんなの絵本のおうち(泉区)

ふ-しん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。
「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民の皆さんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることにつながっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げたいという願いが込められています。

「ヨコハマ市民まち普請事業」とは

市民の皆さんが主体となっていく、地域の課題解決や魅力向上のための施設整備を伴うまちづくりに対して、支援、助成を行う事業です。
施設整備のアイデア検討やコンテストへのチャレンジ、地域の方々との合意形成、整備への労力提供などの機会を通じて、地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広がることを目的としています。



横浜市地域まちづくり推進委員会

ヨコハマ市民まち普請事業部会委員(令和元年度選考委員) ※所属は令和元年度時点

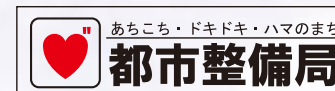
- 杉崎 和久(部会長) 法政大学法学部教授(公共政策)
- 植松 満美子 市民委員(公募)
- 岡本 滙子 NPO法人さくら茶屋にししば理事長(まちづくり・市民活動)
- 加藤 功甫 市民委員(公募)
- 川原 晋 首都大学東京・都市環境学部教授(市民主体の地域運営・まちづくり市民事業) ※現在は東京立大学
- 後藤 智香子 東京大学先端科学技術研究センター特任講師(まちづくり・住環境・子ども環境)
- 菅 孝能 (株)山手総合計画研究所代表取締役(都市デザイン・景観デザイン)
- 鈴木やよい NPO法人横浜市民アクト理事(まちづくり)

ヨコハマ市民まち普請事業 整備事例集 vol.15

令和2年度整備事例集



- 発行 令和3年9月
横浜市都市整備局地域まちづくり課
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50-10 TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641
- 編集・デザイン 横浜市住宅供給公社
- デザイン・印刷 山陽印刷株式会社



「まち普請事業」についてはホームページをご覧ください。
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/machibushin/>



Webで検索

Facebook「ヨコハマ市民まち普請ひろば」もご覧ください。
<https://www.facebook.com/yokohama.machibushin>



Webで検索

コミュニティカフェの新設

高齢化した街の力を引き出す新たな多世代交流拠点



元台湾料理店を改修。オレンジのドアは日野南地区のお宅に多く植えられている夏みかんをイメージしている。

3人の発起人の1人、代表の池田さんは、介護福祉士として仕事をしていた中で、「ただ誰かと話したり一緒に過ごしたりしたい」という利用者の求めに応えられない悩みを抱えていました。同じく発起人の杉山さんは、地区の民生委員会の会長で、高齢者が地域の中で気軽にいしゃべりができる場所が欲しいと思っていました。2人は長らく住まいが隣で、互いの問題意識を話す中で、10年ほど前から地域にカフェがほしいと漠然と考えていたようです。

もう1人の発起人である鳥海さんは保育士として働いていましたが、自身の初めての出産・育児の時に、子どもだけでなく親も含めてケアをしてくれる場所が少ないことにあらためて気づき、身近に親子の居場所をつくりたいと考えていました。

その後、日野南地区に引越してきた鳥海さんは池田さんと出会い

ます。きっかけは各々別々の方から「地域の子ども会をつくるのを手伝ってほしい」と相談されたこと。単に子ども向けではなく、親も地域の大人も一緒に楽しめることがしたいと考えた2人は「地域の子どもたちの絆を深める会」、通称「そうだ！何しよう会」を立ち上げます。平成29年のことです。

同時期に、杉山さんは連合自治会長や地区社会福祉協議会の方と、子どもから大人まで誰でも自由に集まれる場所をつくるために「日野南カレー屋さん」という取り組みを自治会館で始めました。「そうだ！何しよう会」も一緒にあって、1階ではカレーライスを作って、2階では親子向けの催しを行うようになりしました。3ヶ月に1回の開催に毎回100人を超える人が集まるようになり、高齢者と親子が生き生きと交流する姿を見て、3人は「地域の方が毎日集まれる場所」が欲しいと考えるようになりまし



左側は小箱ショップ(棚ごとにレンタルし手作品などを販売するスペース)で、「つながるマスクプロジェクト」がきっかけでレンタルした人もいます。床が様々な色の木材になっているのは、いろいろな人が集まって一つの場所になるというコンセプトを表している。

地域の中で場所を探し始めますが、個人の集まりではなかなか物件を借りることも思い切れません。そんな時、地域ケアプラザの職員からまち普請を紹介され、応募することにしました。ただ、それが応募締め切りの10日ほど前のタイミング。提案書は寝る間を惜しんで書いたそうです。

「カレー屋さん」を通じてすでに連合自治会長ほか街のキーマンとのつながりができており、さらに池田さんと鳥海さん。「高齢者が安心してずっと住んでいたいと思うのと同じくらい、子どもが大人になった時にこの街に住みたいと思えるようにできることを考えたい」と池田さん。2人を中心に、杉山さんはじめこの街を育ててきた方々に支えられながら、i-cocccaはこれから先も世代を超えたつながりを紡ぐ場であり続けることと思います。

の思い出があり、食事と一緒にその思いも伝えられていきます。このように「コロナ禍でもできることをやりながら、並行してコミュニティカフェの整備にも取り組みました。壁の塗装は自分たちで手がけ、令和2年10月にオープンを迎えました。

オープン後、12月までは予約なしではランチも食べられないほど盛況でしたが、年が明けて1月に緊急事態宣言が発出されます。特に高齢の方は感染を避けて外に出なくなつたので、ランチを休止せざるを得ず、お弁当の販売だけに切り替えました。一方で、親子の居場所が閉じてしまいき場がなくなつた子育て世代や、友達の家では遊べず放課後に集まれる場所を求めていた小学生たちのために、状況を踏まえながら徐々に場をひらいていきました。現在もコロナ感染防止対策を講じながら、お年寄りから子どもまで地域の方々の方々の居場所になっています。

「コロナ禍においても地域の声に寄り添い続けるi-coccca」。まち普請に挑戦したことで、まちの多くの人とつながれて、あらためてこんなに豊かな地域だったことがわかった



壁紙の張り替えや壁の塗装はメンバーに加え、近所の方も手伝ってくれた。

田さん鳥海さんの友達も巻き込んで、1次コンテストは満票で通過。しかし、1次コンテスト後すぐに、予定していた場所が使えないことがわかりました。場所探しが一番苦労したとのことでしたが、その間に多くの人に活動を知ってもらう機会が生まれ、1次コンテストの時よりもさらに多くの人に応援してもらい、2次コンテストも見事満票で通過しました。

場所が見つかりコンテストも通過して、やっとコミュニティカフェづくりに着手できると思っていた矢先に新型コロナウイルス感染症が本格化し、思うように活動ができなくなりました。そんな中、日野南地区でもマスク不足が深刻に。そこで、「つ



クリスマス会の様子。自然と多世代が一緒に過ごす場所になっている。

ながるマスクプロジェクト」と名付けて、まち普請をきっかけに発行し始めた広報紙「i-coccca(いっこか)通信」にて、地域で余っている布とマスクの縫い手を募り、地域の力を借りて布マスクを製作し販売会を実施しました。その他に、健康を考えた7種類の惣菜を提供するランチメニューを開発したことで、多くの小皿が必要になったので、地域からお皿を寄付してもらうことにしました。その名も「旅するお皿プロジェクト」。集まった200枚以上の小皿にはそれぞれ以前の持ち主

「コミュニティカフェの新設(港南区)」
 整備主体：みんなが繋がる頼いの家 i-coccca 作り隊
 整備場所：港南区日野南6丁目29番17号
 整備内容：キッチン、トイレ、建具、内装等
 竣工時期：令和2年10月

カベを取り払ってみんなが自由になる「ひろば」づくり 壁をなくすことで心理的な壁をなくした地域の拠点の新たなスタート

菊名駅から南に少し坂を上った錦が丘の住宅街にある「菊名みんなのひろば」。道路から庭と縁側が見え、立ち寄ってみたいくなる空間です。ここは、地域の様々な活動の拠点としてだけでなく、「お水飲ませー!」という学校帰りの子どもに、「子どもが寝ちゃって、少し休んでらっしゃいますか?」という子育てマ



菊名駅への往来の多い通りに位置する菊名みんなのひろば。

マなど、色々な人の立ち寄り場になっていきます。

錦が丘地区は、戸建てが多い閑静な住宅地です。長く住む人が多く、10年前から移動や買い物に不便を感じる人のために「ミニコミュニティバス」を走らせたり、地域のために開かれた「ギャラリー」の名前をとって「弥平のつどい」と呼んでいる情報交換の会を開くなど、自ら町を住みやすいものにしていく、という動きが盛んなまちです。

ところが、駅に近いという利便性ゆえに、マンションが増え、近年環境が激変しています。新しい住民が増え、子どもも多いけれど、高齢化、孤立化もすすんでいます。新しい住民の方や引きこもりがちな方、サポートが必要かもしれない方たちとのつながりがないことに課題があると感じるようになった地域の人は、気軽に集まる場所があればと思っています。しかし、この地域には公共施設がなく話をするにも集

まる場所がありませんでした。活動拠点が欲しいというのが地域の思いでした。

そこで、不動産業を営む植村さんは、一軒の家を提供しようとして申します。それを聞いた地域の人たちが集まり、ここでどんな活動ができるかをみんなで考えることに。平成31年4月に「新たな拠点づくりワークショップ」を行いました。その後も定期的に集まり、具体的に何をす



元あった壁を撤去して見た目にも入りやすくなった。

のか議論を重ねました。その中で「子ども向けに駄菓子屋さんをやりたい」「ちょっとお茶が飲めるカフェ機能があるといい」「孤立しがちな高齢者、子育て世代を対象に地域の食堂を開きたい」など様々な希望が出てきました。まずは、拠点のあ

披露目を兼ねてバザーを開催したところ大盛況で、拠点について知る人が徐々に増えていきました。しかし課題も出てきました。元々

は一般の住宅ということもあり、建物の外周が壁で閉ざされ、その存在や活動の様子が分かりにくく、地域の方とのつながりが生まれにくい状況でした。住宅の扉を取り払い、玄関までスロープをつければ、もっ

と人を受け入れやすくなると話が進み、その整備にまち普請を活用してはどうかと声が上がりました。そこで5月に申請を決めて、「菊名・錦が丘にみんなのひろば」をつくる会」を結成し、6月に提案書を提出。すべに7月の1次コンテストに向けて準備が始まりました。メン



スロープを設置して車椅子の方も気軽に訪れることができるようにした。

バーでお揃いのTシャツを着込み臨んだ1次コンテストは無事に通過。しかし、急に整備に向けて動き出したことで近隣から少し不安の声が上がりました。そこで趣旨を理解してもらえらるよう、説明会を開催したり、個別に説明に回るなど、丁寧にコミュニケーションを取っていきま

した。また、催し物を実施する中で、地域の賛同者が着実に増えていき、見事に2次コンテストを通過しました。整備を終えて、令和3年5月にお披露目会を開きました。「新たな拠点づくりワークショップ」から2年、「菊名みんなのひろば」として新たなスタートを果たした拠点は、駄菓子屋やカフェなど、多様な活動の場所として活用されています。それぞれの活動者が「みんなのひろばをつくる会」として一体となることで、つながりが生まれ、共同で場を盛り上げる機会も増えています。

コロナ禍であっても、工夫して活動を続けることで地域ケアプログラムのサテライトになったり、地域住民らで企画された「近所文化祭」の会場の一つになったり、拠点そのもの



整備したデッキは縁側のようにも使われている。この日は駄菓子を買った子どもたちの居場所に。

の役割も変わってきました。

小学生や中高生など若い世代も来るようになり、多様な出会いが生まれています。日常的にもご年配の「ミニコミュニティバス」の運転担当者が待機している横で、子どもを遊ばせながら母親同士がおしゃべりするなど、多世代が集う素敵な空間になっています。

植村さんは「地域の課題、人それぞれの思いなど、段階を踏んで、その先にまちづくりへの関心を持たれるようになると思います。私もそうでした。そのためには議論の場が不可欠で、ひろばの存在意義は『語る場』を提供することだと思っています」とおっしゃいます。その言葉の通り、ひろばからまちづくりがどんどん

広がっています。

「みんなのひろばをつくる会」代表の清水さんは「駄菓子屋もカフェも、地域のつながりをつくるためのツールです。施設が提供され、さらにまち普請によって、物理的な壁を取り払ったことで、より利用しやすい場所になり、多様な人が集まってきて、心理的な壁のみならずいろんな『壁』も取り払うことができつつあります」と言います。

カベを取り払った一軒の家が生まれ出すエネルギー、これからも展開が楽しみです。

カベを取り払ってみんなが自由になる「ひろば」づくり(港北区)

整備主体：菊名・錦が丘にみんなのひろばをつくる会

整備場所：港北区錦が丘17番7号

整備内容：外構(塀、階段、庭)の改修・スロープ新設等

竣工時期：令和3年3月

みんなの絵本のおうち

人をつなぎ、可能性を引き出す絵本のエネルギー溢れる拠点

相鉄線いずみ中央駅のロータリーに出た高架下には、いろとりどりの絵本と談笑する人の姿が窓から見える。何やら楽しい空間があります。そこが「みんなの絵本のおうち」です。

この場所を運営するおはなしの風の中心メンバーの森川さんと松本さんは、子育てに悩んだ時に、絵



道路に面した窓には「みんなの絵本のおうち」の文字。その奥に何冊もの絵本が見える。

本に勇気づけられたことから、絵本の力を実感します。コンサートリーディングという音楽と朗読を組み合わせる手法を学び、自分たちのように悩んでいる人の力になりたいと、子育て支援拠点を中心に様々な場所に赴き、絵本の読み聞かせを行ってきました。毎回できるかぎり沢山の絵本を持っていきますが、もっと参加者の気持ちに合わせて絵本を聞かせてあげたいと思い、絵本をいつでも手に取れるように、常設のスペース「森ちゃんの絵本のおうち」を開設しました。全て自費で始めたというので驚きです。

2人のコンサートリーディングを聞いた人たちが多く来てくれましたが、地元の泉区の利用者がなかなか増えず3年ほどが経ちました。駅から少し離れている上に、急な外階段から入る不便さ、5人入ると身動きが取りづらくなる狭いスペースに、「2人は「もっと多くの人が来やすい場所があれば」と思い始めまし

た。そんなある日、相鉄の社員が訪れます。2人の絵本に対する思いや実際にコンサートリーディングを聞いた相鉄の社員から「いずみ中央駅の高架下を改修するにあたり子育て支援を充実させたい。会社としてもサポートするので新しい絵本の拠点を開きませんか？」と提案を受けます。思ってもみない話に2人は大喜びしますが、内装や家具は自分たちで整備する必要があります。自分たちで悩んでいたところ、相鉄の社員からまち普請のことを聞きました。早速、地域まちづくり課に相談をし、応募を決めました。

1次コンテストは絵本の魅力をみんなに伝えたいという熱意でなんとか通過しますが、審査員から「2人だけでなく、もっと仲間を増やした方がよい」「地域の人たちともつながるように」「地域で求められる施設を目指してほしい」と言われます。

これまであまり地域の活動に携

に挨拶に回り、地域のつながりや知り合いを増やしてきました。出会う人に絵本は子どもだけでなく大人のためにもなる、子育て中の母親が幸せなら、子どもも家族も幸せになり、地域に幸せが広がっていくことを力説していきました。実際にコンサートリーディングを体験すると、多くの人たちが共感し、中でも地域ケアプラザや社会福祉協議会の職員は、絵本の持つ力、特に子育て中の母親たちへの貢献が大きいことを理解し、賛同者が増

えていきました。さらに、これまで利用者として拠点に来ていた地域の人たちに加え、保育士や看護師などの専門家がグループに加わったのです。

コンサートリーディングを通じて、訪れる人たちのために優しい居場所を作り、みんなの心に温かな灯りを灯したい。地域の人たちに会い、子どもたちと模型をつくり、仲間はずになつて2次コンテストに向けた準備に熱中しました。そして、2次コンテストを満票で通過します。



入口側は小箱ショップになっており大半は地元の方が出店している。貴重な収入源。

現在、絵本のおうちは、たまたま前を通りがかった人から、遠方からここを目指して来る人まで、多くの方が訪れます。まち普請でつながった区内の福祉作業所や地域ケアプラザとの連携も続き、ボランティアは50人以上になっています。子育てに悩んでいたママが絵本のおうちを訪れることで励まされ、その後ボランティアとして手伝うようになった



コンサートリーディングをはじめ、定期的に絵本を使ったイベントも行っている。

り、80代の女性が毎週1回ボランティアに来ることを生きがいにしたり、日曜日に小学生が集まり、コンサートリーディングで絵本を読む練習をし、絵本のおうちの隣にある保育園の園児に読み聞かせをしたこともありました。子どもから高齢者まで多様な顔ぶれが集い、日々新たな出会いが生まれ、自分の好きな事、得意な事を表現する場となつています。

松本さんの希望でランチの提供



棚には約1,500冊の色とりどりの絵本が並んでいる。

を始めたところ、「ご飯を作るなら手伝うよ」という新しいボランティアが現れ、ランチ目当てに訪れる子育て世代も増えました。最初はあまり料理をすることに積極的ではなかった森川さんも、ボランティアの人たちが楽しそうに作っているのを見て、今では「ごはんをつくって、一緒に食べるって、楽しい」と気持ちが変わっていったと教えてくれました。

関わる人だけでなく、主催者も変えていく拠点の力。これからも、想定外のことや沢山生まれそうです。

Access Map

至 二俣川
至 戸塚
至 湘南台

● 泉区役所

● 泉区民文化センター

● 中和田公園

● 和泉川

● 和泉城上

● いずみ中央地域ケアプラザ

● いずみ中央駅

● 相鉄いずみの線

● 整備場所 (高架下)

みんなの絵本のおうち(泉区)

整備主体：おはなしの風

整備場所：泉区和泉中央南5丁目4番11号

整備内容：絵本棚他内装

竣工時期：令和2年7月